

# 地域医療連携だより

Vol.206

R2.7

長浜赤十字病院 地域医療連携課  
〒526-8585 滋賀県長浜市宮前町14-7  
TEL0749-68-3314  
FAX0749-68-3315



地域医療支援病院・救命救急センター  
地域周産期母子医療センター  
地域災害医療センター  
滋賀県地域がん診療連携支援病院



仲夏の候、貴院におかれましてはますますご清栄のことと存じます。  
平素より当院の地域連携に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。  
今月は、診療紹介として循環器内科並びに放射線科のトピックスを掲載しております。



## カテーテルアブレーションについて

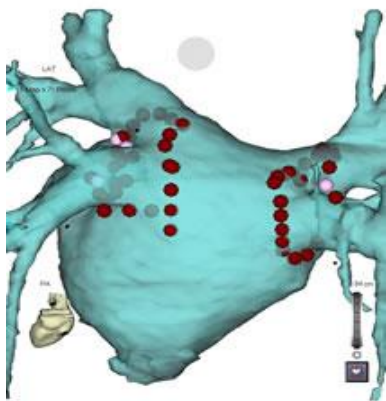
心房細動に対するカテーテルアブレーションについてご紹介させていただきます。

当院では、平成25年よりカテーテルアブレーションを開始してから、大きな合併症なく着実に症例を積み上げてまいりました。アブレーションは、医師だけでなく、看護師・臨床検査技師・診療放射線技師・臨床工学技士など多くの職種がかかわる治療となります。症例経験を積み重ねながら、安全第一をモットーに、最大限に治療効果を上げるとともに治療中のストレスを軽減するように努めております。



循環器内科副部長  
道智 賢市

最近1年ほどで、アブレーションの立ち位置にも変化がありました。

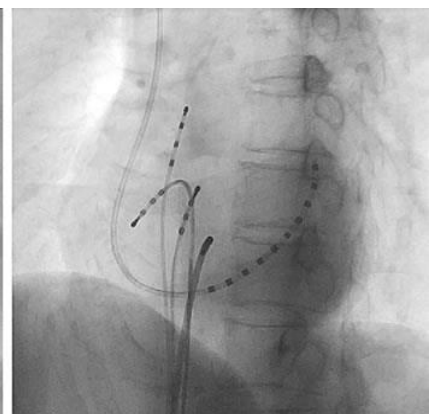
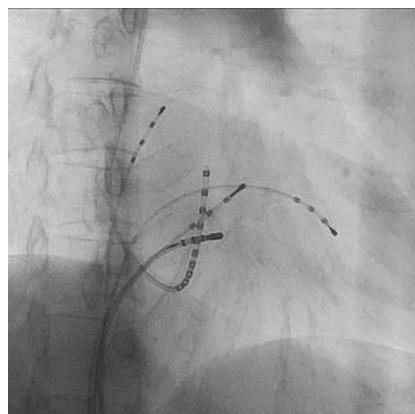


2019年3月には「不整脈非薬物療法ガイドライン」が、続いて「2020年改訂版 不整脈薬物治療ガイドライン」が、日本循環器学会より発表されました。これまでよりも心房細動に関する記載が増え、心房細動に対するアブレーション治療の適応が広く推奨されるようになりました。同時に当院での心房細動へのアブレーション症例も増加してきました。

しかしながら、アブレーションだけで心房細動治療は完結致しません。特に心房細動の包括的管理が必要であることが強調されており、臨床的問題や、併存疾患の管理、多職種によるチーム医療などについて重要視されるようになってきています。アブレーション適応の拡大とともに、管理すべき疾患や状態が増え、ますます開業医の先生方との連携が必要不可欠となってきております。

例えば、心房細動の発生については、可逆的要因の見直しが必要とされています。高血圧、糖尿病、高脂血症など生活習慣病をはじめ、甲状腺機能亢進症や睡眠時無呼吸症候群は大きな要因です。当院では、糖尿病・内分泌内科や耳鼻いんこう科との連携をスムーズに行い、治療にあたっております。甲状腺機能亢進症の方に薬物療法を行うと、心房細動は自然に洞調律に復し、心不全も完治してしまうことがあります。また、睡眠時無呼吸症候群の確定診断となれば、C-PAP（持続陽圧換気）を導入します。はじめはマスクを着けて眠ることはできなかった人でも、一度でも熟睡した後のさわやかな朝を実感するとC-PAPなしでは眠れなくなるほどです。当然のごとく発作性心房細動は軽減し、耐糖能異常も改善することも経験します。アブレーションだけではなく、全身管理がとても重要であることを再認識させられます。

これからも、より一層安全で効果的な治療を、患者さんとともに悩み・励まし合いながら行っていきたく思います。心房細動のみならず、不整脈を見つけたらお気軽にご相談ください。



# 放射線科 血管造影室の紹介



はじめまして、放射線科看護師の岡本です。血管造影室では、IVRの看護を行っています。IVRとは、インターベンショナル・ラジオロジー (Interventional Radiology) の略で、X線透視やCT、超音波などの画像診断装置を用いて、体内に細いカテーテルや針を入れて診断・治療する方法で、低侵襲であることがメリットです。

血管造影室ではカテーテル検査・治療を受けられる患者さんに対して、緊急症例を除いた全症例で術前訪問を行っています。当日担当する看護師が訪問し、自己紹介やオリエンテーションを行います。術前訪問で会っている看護師が入室時に居ることは、患者さんの安心感につながります。昨年度から、患者さんの不安軽減を重視した術前訪問に力を入れて取り組んでおり、患者さんの表情や発言から不安の程度を把握して、術中の看護ケアにつなげています。

IVRは、低侵襲であることがメリットですが、副作用や合併症が全く無いわけではありません。様々な合併症を予測しながら患者さんの変化に注意して対応しています。痛みや不安が強かった患者さんや治療が長引いたり鎮静剤によって眠ったまま退室していかれる患者さんに対して、術後訪問を行っています。術後の経過や検査・治療中に患者さんが感じた不安や痛みについてもお聞きします。患者さんのそばに居た看護師だからこそ、お気持ちに寄り添って振り返ることができると思います。どんな事がつらかったか、声かけは十分だったかなどもお聞きして、看護ケアが患者さんにとって適切だったかを評価しています。患者さんからは、「近くで声かけしてもらえて安心できた」「訪問で来てくれた人が笑顔で迎えてくれて安心した」「不安やったけどカテーテルしてみて良かった」等の嬉しいお言葉を頂いています。これからも、一期一会の心で患者さんとの関わりを大切にしていきたいと思っています。

アンギオ室でのカテーテル検査・治療は、医師・看護師・診療放射線技師・臨床工学技士・臨床検査技師など多くの職種が関わるチーム医療であり、コメディカルの役割は非常に大きいと考えます。

インターベンションエキスパートナース (INE) や心血管インターベンション技師制度 (ITE) や日本血管撮影インターベンション専門診療放射線技師認定機構 (JAPIR) など、カテーテルインターベンションにおける専門的な認定資格を持ったスタッフと共にチームで患者さんをケアしています。



インターベンションエキスパートナース  
岡本 純子



退職医師のお知らせ

精神科 金井 裕彦

お世話になりました

